

**子供の未来応援基金事業審査委員会**  
**(新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業)**  
**議事要旨**

日 時：令和2年7月9日(金) 15:00～16:00

場 所：中央合同庁舎第8号館6階623会議室

出席者：

**【委員等(敬称略)】**

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 小 川 晶 子 | ライオンズクラブ国際協会FWTチーフ    |
| 菊 池 まゆみ | 藤里町社会福祉協議会会長          |
| 草 間 吉 夫 | 茨城キリスト教大学非常勤講師        |
| 本 田 和 彦 | 横浜市こども青少年局総務部長        |
| 西 田 進   | 一般財団法人アズビル山武財団専務理事    |
| 宮 本 みち子 | 放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授     |
| 室 田 信 一 | 東京都立大学人文社会学部人間社会学科准教授 |

( 印の委員はオンライン出席 )

**【事務局】**

|      |  |
|------|--|
| 嶋田裕光 | 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)                       |
| 牧野利香 | 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(子どもの貧困対策担当)       |
| 井関大洋 | 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(子どもの貧困対策担当)付参事官補佐 |
| 福井正崇 | 独立行政法人福祉医療機構NPOリソースセンターNPO振興課長           |

**議事次第**

- 1 . 開会
- 2 . 政策統括官挨拶
- 3 . 議題  
子供の未来応援基金による「新型コロナウイルス感染拡大への対応に伴う緊急支援事業」の採択について
- 4 . 閉会

## 内閣府政策統括官挨拶

( 嶋田政策統括官 )

この度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、NPO法人等が迅速に新型コロナウイルス対応をできるよう緊急的支援事業を実施させていただくこととなった。

2週間という短い期間の募集・公募にもかかわらず、151の団体から創意工夫あふれる事業が寄せられた。新型コロナウイルスに負けないという強い気概を持って、多くの団体が手を挙げてくださっていることについて、ひとえにこれまでの基金を通じた支援の賜物でもあると確信をしている。

今回の緊急支援事業は、天皇陛下からの御下賜金から1,000万円を使わせていただくことを予定とし、また、多くの企業や個人の方からも御協力を申し出ている。事務局としても、しっかりとこうした子供たちを思う温かいお気持ちを受け止め、新たな生活様式に即した先駆的な取組を実施できる団体選定に努めてきた。

この委員会で決定いただいた支援団体に対する伴走支援をしっかりと進め、子供たちが夢を持って成長していける社会の実現に全力を尽くしてまいりますので、引き続きよろしくお願いしたい。

## 緊急支援事業の対象団体等の策定方針

( 事務局 )

今回の緊急支援事業の支援対象の内容として、今までも子供の貧困に対する支援を行ってきたNPO法人が追加的に実施する事業へ支援金を交付するという枠組みにさせていただいた。

また、対象団体として、過去1年以上活動を実施したことがある団体、また、法人格を持つ団体に限定をさせていただくとともに、これまでの基金による支援団体も対象とするが、第4回支援団体は対象外とした。2週間の公募を経て151件、総額約3億5,300万円の申請があった。

( 令和2年5月29日基金事業審査員会資料5を示し ) 5月29日に配付させていただいた資料であるが、これにより大まかな選定方針を決定いただき、これに沿って審査を進めた。

特に「(1)支援対象団体」において、常勤の役員、職員が1人以上いるなど、団体が事業を安定的に運営できることや、過去1年に支援した子供数が実数で10人以上というような数値的な要件、また、「(2)選定にあたって優先される団体」といたしまして、想定される支援子供数が多い団体というような要件があり、これらにより順位づけあるいは団体の振り落としをさせていただき、上位のほうから選定候補として選ばせていただいた。

5,000万円という支援上限金額が設定されていたということもあり、上位20団体程度を選定するという形になった。

## 支援申請状況について

(事務局)

資料1にあるように今般の支援事業に対する申請状況は151件で、事業分野に関しては、学びの支援、居場所、衣食住の支援が多くなっていた。

また、地域別はかなり分散しており、全国各地から申請があったというような状況。

## 採択案について

(事務局)

採択団体候補を、事業類型別に見ると、「様々な学びを支援する事業」、「衣食住など生活の支援を行う事業」が多くなった。一方、他の分野においては、最低1団体は入れるという形でバランスを取らせていただいている。

地域別についても、支援子供数という要件で判断すると、東京が多くなるものの、地域バランスを考慮して、調整をさせていただいている。

(草間委員長)

御説明をいただいた審査の過程の中で、委員長としては随時のタイミングで確認させていただいた。採択候補団体につきましては、こうした内容の審査に加え、事務局によるSNSやホームページのチェック、そして関係省庁・地方公共団体によるネガチェックも実施いただき、いずれも信用性の面で問題がない団体であることを確認している。

20団体に対する支援予定総額につきましては、約5,300万円。事業内容が評価できるものであることは大前提である。事業類型別、地域別のバランスも取れたラインナップになっているのではないかと評価をしている。

また、参考資料1として、各団体の支援事業概要をまとめている。

主として、お弁当や食材の宅配やフードパントリーの開催やタブレット等を活用したオンラインの学習支援や相談会の実施、また3密対策を施し、子供食堂や居場所支援の分散開催等の事業が多い。

審査について、御案内のとおり、私に一任をさせていただいたところ。事務局の精力的な審査のおかげで、皆様にも御確認をいただく時間を設け、委員の皆様全員からの御了解の連絡をいただいていると認識をしている。これまでの説明の中で不明な点はあるか。(各構成員より意見なし)

## 緊急支援事業にあたっての気づきや委員からの意見

(草間委員長)

今回、事業審査委員会としては、皆様の御理解と御協力も得て、例を見ないスピード感を持って団体の選定ができた。今後来る災害等に備えて、この経験をきちんと次回にも生かしていくべき。

また、新型コロナウイルスは多くの団体の活動に影響を与えている。今般採択された事業はいずれも「新しい生活様式」に即した今後の団体の活動の模範となる取組となってもらいたいと期待をしている。

こうした観点から今回の団体の選定方法も含め、緊急支援に当たってのお気づきの点、次回に生かすこと、あるいは今後の伴走支援に当たって留意すべき事等について、皆様からお考えがあれば、ぜひ伺いをさせていただきたい。

上記を踏まえ、主なコメントは以下のとおり。

- 1 従来の基金の対象となっている事業の中には、中間支援団体のような団体が幾つか入っていたと思うが、今回はダイレクトサービスなど直接支援を提供している団体に絞っている。「新しい生活様式」の中で、今後全国的に草の根で活動している団体をはじめ、多くの団体が「新しい生活様式」に合わせた対応を迫られると思う。その際に、今回は例えば学習支援であればオンラインを用いたという点で申請を行った団体が多いので、中間支援団体が例えばオンラインの学習支援のノウハウのようなものを提供することによって、多くの団体が利益を被るかと思うので、今後はそういった中間支援団体がノウハウを提供するようなものに対しても積極的に支援をしていったらいいか。
- 1 新型コロナウイルスの関係で、活動が従来と違った形になってきているが、その進捗状況について、今回採択される団体はしっかりとしたホームページを作られている。そのようなことも情報発信していただけると、他の団体の参考にもなるし、支援金額の300万円というものについても御納得、御理解をいただけたらと思う。積極的な情報発信をすると良い。
- 1 今回、大変短い期間の間に20団体が決まったということは、驚くほどのスピードである。このような活動を通して、子供たちの実態、その親御さんの実態というものが掴めると考える。現場の支援の活動の中から、新型コロナウイルス感染症によってどのような現象が生まれてきているのかということが分かる。その辺りのところを大切にしながら活動を進めていただきたい。今回の採択団体は6つの事業類型別の区分を中心に活動しながらも、他の要素を取り込んだ形で幅広く活動をしているか、それができる団体ではないかと考える。学習支援と、居場所と、衣食住生活支援、就労支援、児童養護施設等の退所者等、貧困の連鎖も相互に連携しているため、このような団体がうまくつなぎながらニーズに応じて活動をしていただけるのではないかと期待を感じた。

- 1 オンラインの学習の成果は、どのような形で行われているのかという基準がないと、どこのNPO法人が行ったオンラインの事業が有効であったのかわかるが、そのような比較の物差しがない。どのやり方が良かったかというのが後で検証できると方向性が見えるかと思う。
  
- 1 今まで行っていた運営の方法が今はできないということから、今できることを各団体が工夫している。オンライン教材を製作する、今現に使っていない子供食堂をフードパントリーに切り替えるなど、今できることと取り組むと考える。ただ、無償化や、無料化という形だと、来年度以降どのように事業を行っていくという観点がなければ、今年は頑張っても、来年にどうつながっていくか。今取りあえずやるということのほうが大切だと思うが、来年、せっかく行っている事業をどこかにつないでほしいと思っている。
  
- 1 学習支援の評価に関して、従来のオンラインでなくとも、一律の評価基準というものがあるわけではないと理解している。すなわち、学力だけが唯一の判断基準ではなく、参加者の自己肯定感や、自己有用感、また、つながりがより増えたことや、居場所としての機能を提供したなど、そういう側面が大きいのか。もしくは、そういう側面が副次的に提供されているのか。それによって総合的に判断されると考える。プログラムによってどこにウエートを置くかも変わってくるかと思うので、オンラインになったことで評価軸が大きく変わるわけではないと考えるが、学力だけが評価の軸ではなく、従来から比較的幅広い評価の考え方を持っていると考えている。

以 上